

令和6年度学校経営報告

東京都立小平西高等学校長

西澤 博光

1 今年度の取組目標と自己評価

(1) 学習指導

生徒一人1台端末を活用した授業を教員29名(全教員の約7割弱)が実践。研究授業を25回実施し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、自習室利用者数は1,306名、授業評価満足度86.6%、で前年度に比べ増加。

(2) 進路指導

年24回の進路行事等により科目選択能力を醸成し、小論文・面接指導を全教職員で担当するとともに、長期休業期間中に講習会36講座を実施した結果、大学短大合格者146名(57.5%)、日東駒専以上の現役合格者15名、進路決定率96.1%を実現。東洋大学の指定校4枠追加に続き、武蔵大学の指定校枠が新たに加わったことは、生徒にとって大きな励みとなった。

(3) 特別活動

部活動の加入率70.8%で微減。学校行事は三大行事とも、生徒による主体的な運営を推進。学校評価アンケート結果から、学校行事の満足度は、生徒91.1%、保護者88.8%で肯定的な回答であった。部活動の満足度は、生徒77.4%、保護者65.0%で肯定的な回答で、やや乖離している。

(4) 生活指導

ア 自己指導能力の育成

自転車安全運転指導で、乗車時のヘルメット着用を促したが、着用率は低調であった。生徒会を中心にSNS小平西ルールを策定し、情報活用能力を醸成。登下校指導等により遅刻指導を継続したが、年間7,532件で目標値を超えてしまった。

イ 生命尊重の理念に基づいた組織的な支援

スクールカウンセラー及び関係機関との連携を密に図り、潜在的に問題を抱えている生徒5名について、YSW派遣による面談指導を継続。生徒1名が外部機関と連携した通級指導を開始し、1名がコミュニケーションアシスト講座を受講。学校独自にアシスタント職(困難業務)介助員3名を配置したことにより教育相談体制が一層強化され、いじめゼロ、不登校ゼロを実現。

(5) 防災教育

防災教育推進委員会を年2回実施し、地域と連携した防災訓練や避難訓練について、具体的な助言をいただくとともに、実際に近隣の高齢者施設と連携した取組を実施。4回目の避難訓練はミサイル飛来を想定したJアラート訓練を実施した。

(6) 学校保健

保健だよりを発行して、生徒の健康面や安全管理等について、こまめに周知した。年間の保健室利用数1,019件、来室目的は内科的(頭痛・倦怠感等)705件、外科的(擦り傷・捻挫等)237件、相

談 55 件、その他 22 件、年間の救急車要請は 5 件であった。専門医派遣事業の実施により、専門家等の指導・助言を踏まえて、病気や怪我の対応に関する知見を深めることができた。

(7) 募集活動・広報活動

年 3 回の学校運営連絡協議会の機会を効果的に捉え、学校ホームページの更新回数 144 回、学校見学会及び外部説明会に 1,366 名参加、学校説明会 999 名の合計 2,365 名参加、在校生による出身中学校訪問 47 校、夏季休業期間に学習塾訪問 130 回を実施した結果、中進対第 1 志望 1.08 倍、推薦入試 2.89 倍、学力検査に基づく選抜 1.20 倍を実現。

(8) 学校経営

D X推進委員会を中心に校内D X化を推進するとともに、介助員と連携したコンディションレポート運用体制を構築。校内研修を 2 回実施し、リアテンダント活用率が約 8 割に増え、教職員の情報活用能力向上とともに授業改善並びに働き方改革が促進。職員会議等での完全ペーパーレス化により基幹会議の所要時間 1 時間以内を実現。男性教員 1 名が育児休業を取得、別の男性教員 1 名は育児時間を取得するなどライフ・ワーク・バランスを促進。服務事故防止に向けたシミュレーション研修を年 3 回実施し、服務事故の未然防止に努めたが、2 学期に教員による体罰事故 1 件が発生した。主任教諭選考に 2 名、教育管理職候補者選考に 1 名が合格。学校経営セミナーに 1 名、学校マネジメント講座に 2 名、学校リーダー特別口座に 1 名受講させ、校内研修による人材育成を推進。

経営企画室業務は、校舎老朽化に対応した工事のため、超過勤務等の影響も若干出たが、経営企画室長を中心にチームワークで対応することができた。また、システム変更があった学事業務も適切な進行管理で局面を乗り越えた。

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 学習指導

各教科とも、知識・技能の基礎・基本を定着させていくことが、全ての前提となる。習得がなければ、活用もできず、探究にも繋がらない。探究については、図書館専門員等からの意見も取り入れ、外部人材を積極的に活用していく。教科の見方・考え方を踏まえ、教科を越えて他教員の教材研究や指導方法等を参考にする観点から、相互の授業参観を更に促進させる。引き続き、授業参観シートを全教職員に配布し、年間 3 回以上の相互参観を周知する。授業参観シートは、管理職宛ての提出とする。その上で、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について、教科会等での検討を重ねた上で、教科主任会議で方向性を導き出したい。

本校での学習支援クラウドサービス及びリアテンダント活用教員が 8 割を超える中、生徒一人 1 台端末の活用は、そこまで到達していない。個別最適な学びや家庭学習時間の習慣化を図る上では、デジタル技術等は欠かせないコンテンツとなっていることを再認識させ、D X推進委員会を基軸に周知徹底を図っていききたい。生徒の学習環境を整備することも喫緊の課題である。生徒からは、校内で落ち着いて自習できるスペースを求める声が続出している。図書館を使った自習室利用者数が年

間 1,306 名になっている点からも、新たな環境整備を検討していく。今年度、夏季講習 36 講座で半数以上の教員が学習指導等に当たっていたことは、生徒にとって大きな支援となった。次年度も、今年度実績を上回ることを期待したい。生徒による授業評価結果の分析及び効果的な活用も課題となっており、分析会議を開催するなど合理的かつ効果的・効率的な視点から実施を検討したい。積極的な生徒募集で集めた生徒も入学後の実態を観て、出身中学校へ状況が伝わる。学習指導は全ての根幹である。

(2) 進路指導

大学・短大への進学希望者は約 7 割、実際に 6 割近くの生徒が合格している。その中で、日東駒専以上の合格者は微増、GMARCH 合格者が 2 年ぶりに出た。学校運営連絡協議会委員からも上位層を伸ばせていないとの指摘を受けている。確かに入学時の基礎学力を紐解くと、B 2 レベル以上の生徒が実際に存在していた。多くの進路行事を企画し、多様な進路に応じた個別指導を進路指導部が中心に展開していることは紛れもない事実である。しかし、各学年によって、企画内容がまちまちで単発的になっており、意図的で系統的な進路指導であるとは決して言えない。生徒が自らの適性を知り、将来の夢を描かせた上で、様々な体験活動等を踏まえて、進路実現を図ることは必須である。例えば「どの大学、どの学部、どのゼミ」といったような道筋が定まらないまま最終学年の夏頃を迎えているのが実情である。全教職員による組織的かつ系統的な進路指導の礎を構築する。

(3) 特別活動

特別活動は人権教育、人格形成を図る上で、欠かせないものである。しかし、教員や指導者の主観や思い込みで運営しているケースも伺えると各種報告書では、警鐘を鳴らしている。学習指導においては、双方向の取組が求められている昨今、学校行事や部活動指導においても、生徒の主体性を重んじた取組を更に推進する必要がある。教員や指導者は「我慢して生徒に任せてみる」、出来るかぎり「手出しをしない」ことを申し合わせていく。

(4) 生活指導

身だしなみや遅刻指導、スマホ等の使用方法について、同じ基準（目線）で、教職員全員が生徒に接して指導することは、必須のことである。それは、進路スタイルを指導することに繋がる。ただ、なぜ身だしなみの乱れや遅刻がダメなのかを生徒に考えさせるように努める必要がある。生徒の自己指導能力を醸成することを継続させたい。とはいえ、見守りだけの指導は適切ではない。とにかく全教職員が声を上げて諭すことを推進する。

(5) 防災教育（安全教育含む）

ミサイル飛来を想定した J アラート訓練は、国際情勢等を見据えた斬新な取組であるが、訓練内容について改善の必要がある。年間を通して、生徒を移動させて実際に避難させる取組が全くなかったことは、訓練の趣旨から鑑みて問題と考える。次年度は、地域と連携した防災訓練が実施できるよう連絡・調整を継続する。災害は油断した時に訪れるため、事前周知なしの抜き打ち避難訓練を実施したい。また、自転車通学時における乗車マナーやヘルメット着用を粘り強く指導し、未然に交通事故

等を予見し、安全第一で他者を思いやる乗車を指導する。特にヘルメット着用について、他校生徒と比較しても着用率が芳しくない状況である。まずは、教職員が率先して着用していきたい。

(6) 学校保健

学級担任等と保健室が連携して潜在的に課題を抱える生徒に応じる必要がある。また、綿密に緊急時の手順を確認する等、日頃からの準備を怠らないように心掛ける。学校独自で任用する介助員の効果的な活用について検討を図り、教育相談委員会を計画的に開催する。また、新年度に着任するスクールカウンセラーとの情報共有を促進させ、継続勤務するスクールカウンセラーとの連携を図り、児童相談所や子ども家庭支援センター、YSW等の関係機関と適宜連携していく。

(7) 募集活動・広報活動

学校PR動画のリニューアルが進み、生徒募集活動の在り方を改めて検討する時期を迎えている。学校見学会、校外での相談会、学校説明会、校内での個別相談会は、引き続き、教職員全員で運営に当たりたい。在校生による中学校訪問は100校以上、教職員による学習塾訪問を120校以上実施する。学校ホームページを効果的に更新し、生徒の充実した学校生活の様子を広報する。学校行事に、近隣の住民や小中学生を招待し、生徒による「おもてなし」精神とありのままの本校の様子を観てもらいたい。

(8) 学校経営

生徒、保護者、地域社会から信頼される学校を目指し、教職員が生徒の実態と学校の課題を共有し、同じ基準（目線）で、課題解決に当たれるよう、教職員同士が良好な人間関係を継続して連動できる組織を構築し、コンプライアンスを向上させる。教職員による生徒への何気ない言動が、生徒の心を傷付けてしまうケースも散見される中、生徒の人権感覚を培う上でも、教職員自らが適切な人権感覚を磨いていくことが肝要と考える。本年度、発生した教員による体罰事故は生徒や保護者に心身の苦痛を与えるだけでなく、学校にとっても生徒及び保護者、地域社会等からの信頼を大きく損ねる結果となったことは事実である。この背景にも、教職員の人権感覚の欠如が強く起因している。

次年度に向けて、業務の偏りが解消できるよう、業務の見直しと業務の効率化、教職員の定数増を実現させたい。

校舎の老朽化は深刻で、壁面塗装が剥がれ落ちる等、破損や腐食箇所等が頻発している状態である。生徒の健康と安全を第一に考え、引き続き、所管部署に繰り返し働きかけたい。

目標項目		目標値	実績値	
			令和５年度	令和６年度
学習指導	ICTを活用しグループ学習を取り入れ、主体的な学びであると回答した生徒の割合	75%以上	78.1%	86.6%
	講習や補習の充実度（生徒）	75%以上	77.8%	79.4%
	実用英語検定準２級以上合格者	45名以上	47名	42名
	漢字検定準２級以上合格者	10名以上	15名	22名
	自習室利用者数	1,000名以上	1,121名	1,306名
進路指導	進路指導満足度（生徒）	80%以上	84.5%	87.4%
	大学入学共通テスト出願者数	120名以上	124名	41名
	日東駒専レベル以上大学合格者数	10名以上	13名	16名
	就職決定率	90%以上	100%	100%
特別活動	学校行事満足度（生徒）	80%以上	91.4%	91.1%
	部活動加入率	90%以上	71.6%	70.8%
	上位大会進出（都大会ベスト32以上）	5部以上	4部	2部
	地域貢献活動回数	5回以上	4回	5回
生活指導	自己指導能力の実現度（生徒）	90%以上	93.0%	93.8%
	年間遅刻延べ回数	2,500件以内	5,380件	7,532件
	いじめ問題への対応度（生徒）	80%以上	87.0%	87.1%
募集活動・ 広報活動	学校ホームページ更新回数	350回以上	295回	147回
	推薦入試の応募倍率	3.15倍以上	3.64倍	2.89倍
	一般入試の応募倍率	1.28倍以上	1.50倍	1.20倍
	学校見学会・学校説明会等の参加者数	2,000名以上	2,476名	2,365名
学校経営	学校生活の充実度（生徒）	80%以上	86.9%	89.5%
	学校教育への満足度（保護者）	80%以上	87.7%	86.1%
	教職員の働き方改革（教員）	75%以上	64.9%	74.2%

